

保育者養成校におけるピアノ初学者の個人練習の内容調査

—自宅練習の音データと半構造化インタビューから—

A study of piano beginners' personal practice in a nursery school
:Based on recording data and semi-structured interview

林 麻由美 (東京福祉大学短期大学部)、田中功一 (放送大学)
小倉隆一郎 (文教大学)、辻 靖彦 (放送大学)
Mayumi HAYASHI(Tokyo University of Social Welfare Junior college)
Kouichi TANAKA(The Open University of Japan)
Ryuichiro OGURA(BUNKYO UNIVERSITY)
Yasuhiko TSUJI(The Open University of Japan)

(キーワード)

ピアノ個人練習、練習内容、練習分析、保育者養成

1.はじめに

(1)保育者養成校でのピアノの学習

保育者養成校では、保育現場での音楽活動に必要なピアノ演奏技能の習得を目指す授業が行われている。しかし、学生の多くはピアノ未経験者であるという報告が少なくないのが現状である。ピアノ初学者は短期間で保育現場での音楽活動を行うところにまで達する力をつけるために、個人練習の成果の積み重ねが必要である。併せて教員側も、ピアノ初学者の個人練習の内容と質を把握することが重要と考えられる。

(2)研究の目的

前節を踏まえて本研究では、ピアノの初学者の個人練習の内容と質の解明を目的とする。そのため本稿では、教員の課題提示に際して、授業外時間にどのように練習を構成しようとしたか、また実際の練習内容はどのようなものであったか、さらには、学習者がどのような考えのもとで練習したかについて調査した。具体的には、①演奏データの分析②アンケート③教員による半構造化面接を行った。ピアノ初学者の個人練習の内容が明らかになることにより、教員側のより効果的な指導方法の確立が期待

できる。

2.方法

(1)実験の概要

被験者：T 大学教育学部 1 年生。これまでにピアノ演奏経験の無い男女 1 名ずつ計 2 名。

実験期間：11/25 (水) ~12/22 (火) の 4 週間とし、毎週火曜日の授業の開始時に 1 週間の個人練習を振り返るアンケートを実施した。

被験者が自宅にて電子ピアノとスマートフォンを USB ケーブルで接続し、今回の実験用に独自開発したアプリを用いて、個人練習の全ての録音を行った。その際、練習日及び練習時間は学生の任意とし、教員は敢えて指示しなかった。学生が練習を終えて、録音を終了すると、アプリにより MIDI 形式の演奏データがサーバーに送信される。研究者は①演奏データをダウンロードして聴取することに加えて、②MIDI ファイルのピアノロール画面から練習状況を目視で分析した。

(2)1 週間の振り返りアンケート

アンケートは毎週火曜日 12/1,8,15,22 の 4 回授業開始時に実施した。設問①楽しく練習できたか。②いつ練習するか前もって決めていたか。③どのような内容を練習するか前もって決めていたか。④練習内容にどのくらい満足できた

か。⑤課題はどのくらい達成できたか（①～⑤は4段階尺度で回答）。⑥自由記述。

(3)実験後の教員と被験者との面接

4週間の実験終了後の12/24、アンケートの回答を振り返りながら、半構造化面接を被験者1名ずつオンラインで行った。

(4)VSPPを用いた演奏の特定部分の描画

独自開発の「ピアノ演奏見える化アプリ(VSPP)」を用いて、被験者の演奏と教員の模範演奏をグラフに描画し演奏内容を検討した。

(5)教員による被験者の演奏録音の聴取

実験の初回と最終回の練習内容について、授業担当以外の研究者2名が、ピアノロール画面、アンケート、面接回答を参照しながら、演奏を聴取し感想を記述した。

3.結果

(1)音データ回収と内容の把握について

サーバーに蓄積されたMIDIファイルから、学生Aの21日分、学生Bの17日分の練習日時と練習量が示された。また、MIDIファイルのピアノロール画面から右手、左手、両手での練習状況が目視で確認された。

(2)学生A、Bに対する4回のアンケート結果

A:①の設問に対し、4週ともかなり楽しくできた」と回答し、1週目は、ほぼ全て練習日時を決め、その後もある程度決めていたと②で回答した。③の練習内容については、4週ともある程度決めていたが、④の満足度について、最初から3週間はとても満足したが、4週目はそこまでは及ばなかったとの回答があった。

B:①の設問に対し、4週ともある程度楽しくできた」と回答したが、②については、「1、3週目はあまり決めていなかった。2、4週目はある程度決めていた」との回答であった。③の練習内容を、「3週目はあまり決めていなかったが、その他の週はほぼ全て決めていた」、④の満足感についても、「3週目はやや不満だったがその他の週はある程度満足した」との回答だった。

⑤の達成感について、Bが3週目にあまり達成できなかったとしている以外は、二人ともある程度達成できたとの回答が得られた。⑥についてはAのみ記述があった。

(3)指導教員と被験者との面接

2名の学生は、指導教員から提示された3曲の課題について、1回の練習の中で、複数の曲を弾くという方法で練習を組み立てていた。Aは課題曲を練習する前に、今まで弾いた曲を総復習し、心身の準備をしていた。また、弾ける曲を新しい曲の練習の間に挟み、楽しく練習しよう」と気持ちを高めていた。Bは、実験を行うことにより練習日が増え、より上達でき、楽しくなると回答した。また、万遍なく練習することが自身にとって一番良い練習方法だと気づいた。二人とも練習中にわからないことは、YouTubeの演奏映像で確認していた。それらの取り組みから得られる自身の満足感や達成感は一体的に見て高いものであることが窺えた。また、「幼稚園教諭は自分の演奏で一杯にならず、子どもの方を見ながら演奏しなければならない」、との学習目標に対する発話もあった。

4.考察

2名の学生は「楽しく練習を進める」ために、独自の方法で練習を組み立てていた。また、ピアノの練習の最終的な目的は保育現場で子ども達と一緒に音楽活動を行うことである、と明確にしていることから、養成校の音楽科目におけるねらい・内容を踏まえた取り組みであると考える。また、録音データ、ピアノロール画面を確認することで、教員から学生に対する指示内容がより充実する可能性が考えられる。さらに、ピアノ初学者が初めて聴く曲に取り組む際の、「不安感」についてはできるだけ取り除くために、YouTubeなどの情報以外に、教員が授業内で行う事前指導事項について検討する必要がある。以上から個人練習の内容解明は授業担当者に有益となる可能性が窺えた。